

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成28年6月号

編 集  
発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15  
一般社団法人 日本病院会 通信教育課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## 老婆心切

伊藤 道哉

東北医科薬科大学 医学部 医療管理学教室 准教授

平成28年4月14日21時26分以後連発する平成28年熊本地震により、被災された皆様に心からお見舞い申しあげ、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申しあげる。連日連夜、医療機関等の復興復旧に当たられる、医療福祉関係者、行政担当者、ボランティアの皆様の心身が少しでも安寧であり、今後の長期戦に正確な情報に基づき対処されんことを冀う。

「老婆心」は、「必要以上に世話をやこうとする押しつけがましいお節介」の表現であるが、禅の師匠が懇切丁寧に徹底的に弟子を導く「老婆心切」に由来する。

参禅の道標(みちしるべ)、碧巖録(1125年)第七十則、従容録(1223年)第八十六則等には、今年大遠諱1150年にあたる臨済義玄禅師が、黄檗機運禅師の老婆心切により悟る因縁「黄檗、恁麼(いんもに)老婆、働(なんじが)為に、徹困(困は、惘(まごころ))なるを得たり」(黄檗さんは、親切極まりないではないか。君のために、ひたすら心がこもっている)が縷々示されている。道元禅師は、弟子の育成にとりわけ「老婆心」をもって当たるよう、「慈悲心 老婆心にて 教訓誘引すべし」と、繰り返し繰り返し論じたことが伝えられている。

正岡子規は、病床にあつて碧巖録を愛読(1902年=最晩年)し、第八十七則「雲門藥病」から「藥病相治 盡大地是藥 那箇是自己」(藥病相治す、尽大地是れ藥。いずれかはれ自己。薬と病の相性が良いとすっきり効くが、実はこの世のありとあらゆるものが薬である。さて、君、自己とはなにか。)を引用して、肺病で赤十字病院の病床にあつた弟子の原抱琴を励ます手紙を、奈良茶飯と蕪の漬け物とともに送った。「追伸 丸呑ニスル勿レ 老婆心切」(漬け物は、丸呑みにしないよう。老婆心までに。)と、子規は一言添えている。

被災地はもとより、全国津浦浦で受療される患家の安寧のため、日々精進される皆様、ひたすら心のこもった老婆親切こそが「癒し」につながるようにおもう。

